

(+) car-cinoma sequence の可能性が示唆され、腓液・腓生検等で K-ras 変異を調べることは、腓癌あるいは腓癌ハイリスクグループの診断に有用であると考えられた。

II. 特別講演

接着分子がいかに免疫抑制に働くか

順天堂大学医学部免疫学講座教授

奥村 康先生

第20回リバーカンファレンス総会

日 時 平成8年3月2日(土)

午前9時より

場 所 日本歯科大学新潟歯学部

講堂

I. 一般演題

1) INF 治療を施行した散発性C型急性肝炎の1例

高 明順・八木 一芳
後藤 俊夫・関根 厚雄(県立吉田病院内科)

症例は59歳女性。急性肝炎として紹介入院となった。GOT 408, GPT 784, HCV 抗体陽性, HCV-RNA プロブ 5.4 Meq/ml であり肝生検では急性肝炎と診断された。感染経路は不明で散発性C型急性肝炎と診断した。GPT の2峰性の変動を示し、慢性化を阻止するため INF- α 6 MU を8週連投を開始した。PCR は14日目で陰性となり、21日目で GPT は正常化した。その後も隔日投与し、C100-3 の抗体価が低下していることより著効を期待している。

2) 血友病患者における HCV 感染

畑 耕治郎・坪井 康紀
五十嵐健太郎・月岡 恵(新潟市民病院)
何 汝朝・市井吉三郎(消化器科)
真田 雅好・高井 和江(同血液科)

血友病患者における HCV 感染と肝障害を知る目的で、当院通院歴のある血友病患者63例を対象とし肝機能

検査、B型・C型肝炎ウイルスマーカーおよび臨床経過を検討した。

1) 肝機能異常者は32例/49例(65.3%)、HBs 抗体陽性は21例/28例(75%)、HCV 抗体陽性は22例/22例(100%)と高率であった。2) HCV-RNA は7例/9例が陽性で、ジェノタイプII型4例、III型1例、分類不能1例であった。3) HCV 抗体陽性肝機能異常者は、急性肝炎1例、慢性肝炎13例、肝硬変3例で HIV 消耗症候群よりも肝不全が死因となった例が認められた。4) C型慢性肝炎合併例のうち3例に INF 治療を行い1例に完全著効がえられた。

3) 特異な経過を示したG型肝炎と思われる症例

武田 康男・高橋 澄雄
石川 直樹・太田 宏信(済生会新潟第二
吉田 俊明・上村 朝輝(病院消化器内科))
石原 法子(同病理検査科)
市田 文弘(新潟大学第三内科)

著明な血清トランスアミナーゼの上昇を示し、重症型肝炎の病態を呈したG型肝炎の症例を経験した。

GOT/GPT は一時的に11,000/10,900と上昇、凝固能もヘパラスチンテストで25%と低下をきたしたが、血漿交換・GI療法などによりすみやかに肝機能は正常化した。

血清より HGV-RNA が検出され、G型肝炎と診断したが、組織学的には変化は少なく、胆汁うっ滞と脂肪沈着が主病変であり、アルコール性肝炎と紛らわしい部分もあり、本例の臨床経過がすべてG型肝炎としての病態か否かについては明らかでなかった。

本邦ではG型肝炎の報告はまだ少ないが、劇症肝炎で発症した報告も散見されており、非A～E型肝炎では、本疾患も考慮する必要があると考えられた。

4) 劇症肝炎例から分離された GB 肝炎ウイルスゲノム

小方 則夫・藤井 久一
滝川 真吾・原田 武
天海 陽子・遠藤 正美
市田 隆文・青柳 豊
朝倉 均(新潟大学第三内科)
森 茂紀(県立坂町病院内科)

1967年に最初に記載され1995年にゲノムクローニングされたGB型肝炎ウイルス(GBV)のひとつ、GBV-C